

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ニッチ」とは、もともとは、装飾品を飾るために寺院などの壁面に設けたくぼみを意味している言葉である。それが転じて、生物学の分野で「*」を指す言葉として使われるようになった。生物学では、ニッチは「生態的地位」と訳されている。

一つのくぼみに、一つの装飾品しか置くことができないのと同じように、一つのニッチには一つの生物種しか住むことができない。そして、すべての生物が自分だけのニッチを持つているのである。もちろん、大きなニッチを持つものもいれば、その隙間の小さなニッチを持つものもいる。そして、そのニッチは重なりあうことがない。もしニッチが重なれば、※ゾウリムシの実験に見たように、そこでは、激しい競争が起こり、どちらか一種だけが生き残る。

こうして、世の中のすべての生物が、それぞれのニッチを持っている。そして、ジグソーパズルのたくさんのピースがはまっていくように、たくさんの生物のニッチで埋め尽くされて「生物多様性」と呼ばれる世界が作られているのである。

外来の西洋タンポポは、勢力を拡大している。これに対して、在来(ざいらい)の日本タンポポはだんだんと数を減らしている。そのため、西洋タンポポが圧倒して、日本タンポポが追いやられているように見られることもある。

しかし、実際は少し違う。①西洋タンポポと日本タンポポとは棲むニッチが異なるのである。

西洋タンポポと日本タンポポの特徴を比較してみることにしよう。

A、種子のサイズは西洋タンポポの方が小さく軽い。タ

ンポポは風で種子を飛ばすから、種子が小さい西洋タンポポの方が、より遠くまで種子を飛ばすことができる。種子が小さいので、その分、種子の数を多くすることができ。そのため、西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも種子数が多いのである。

また、日本タンポポは、ハチやアブなどが花粉を運んでこないと種子ができないIであるのに対して、西洋タンポポは自分だけで種子を作ることのできるIIである。そのため、仲間がいなくても、ハチやアブなどの昆虫がいなくても、一株だけあれば種子を作ることができるのだ。

②それだけではない、日本タンポポは春にしか咲かないのに対して、西洋タンポポは一年中、花を咲かせることができる。

そのため、西洋タンポポは次から次へと花を咲かせ、次から次へと種子を作って、バラまくことができるのである。

こうして見ると、どうも西洋タンポポの方が、日本タンポポよりも繁殖力が旺盛で、強い感じがする。西洋タンポポが大繁殖して、繁殖力の弱い日本タンポポを追いやっているイメージも納得できる。

B、実際には違う。日本タンポポには日本タンポポの戦

略があるのである。タンポポを指標とした「タンポポ調査」と呼ばれるものが、よく行われている。西洋タンポポは都市化したところに多く分布する。これに対して、日本タンポポは、自然の残った田園地帯や郊外によく見られる。そのため、西洋タンポポと日本タンポポの分布を見ると、環境が都市化しているかどうか分かるのである。

じつは、日本タンポポは自然が豊かで、他の植物が生えているところでは③有利さを発揮する。たとえば、日本タンポポは

西洋タンポポよりも種子が大きい。確かに遠くまで飛ばすという点では大きくて重い種子は不利である。しかし、大きくて重い種子からは、大きな芽を出すことができる。これは他の植物の芽生えと競って伸びるためには、必要なことだ。さらに、他の花の花粉と交配することで、※バラエティに富んださまざまな子孫を残すことができる。多様な子孫を残すということも、多様な環境があり、さまざまな病害虫に対処しなければならぬ自然の中で生き残るには大切なことである。

C、重要な戦略は「春にしか咲かない」ということである。日本タンポポは春に咲いて、さつさと種子を飛ばすと、根だけ残して地面から上は自ら枯れてしまう。これは、冬眠の逆で夏に地面の下で眠っているの、「夏眠」と呼ばれている。

夏が近づくと、他の植物が枝葉を伸ばし、生い茂る。そんなところで、小さなタンポポが頑張っても、光は当たらず生きていくことができない。そこで、強い植物との無駄な争いを避けて、地面の下でやり過ごすのである。

ライバルが多い夏にナンバー1になることは難しいから、ライバルたちが芽を出す前に、花を咲かせて種を残すという戦略なのである。

D、西洋タンポポは日本の四季を知らないから、他の植物が生い茂る夏の間も、葉を広げ花を咲かせようとす。そのため、西洋タンポポは枯れてしまい生きていくことができないのだ。同じように枯れているように見えても、自ら葉を枯らして眠っている日本タンポポはまったくダメージがない。一年中咲いている西洋タンポポに比べて、④春しか咲かない日本タンポポは劣っているようにも思えるが、じつは戦略的だったのだ。

このように、西洋タンポポは他の植物が生えるような場所には生えることができない。だから、その代わりに他の植物が生えないような都会の道ばたで花を咲かせて、分布を広げている

のである。西洋タンポポが広がり、日本タンポポが少なくなっているという現象は、単に他の植物が生えるような元々の日本の自然が減っているからだだったのである。

どんな生き物もナンバー1になれるニッチがなければ生きていくことができない。

しかし、すべての生き物にとって、ニッチは約束された安住の地ではない。実際には、さまざまな生き物がニッチを奪い合って競い合う。ニッチを守るためには、常にナンバー1でありつづけなければならないのだ。

（稲垣栄洋 『植物はなぜ動かないのか』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

ゾウリムシの実験：生態学者ゲオルギー・ガウゼが行った実験。ゾウリムシとヒメゾウリムシ

という二種類のゾウリムシを一つの水槽でいっしょに飼う実験を行ったところ、両者はエサや生存場所を奪い合い、一種類だけが生き残り、もう一種類は減ってしまった。

旺盛：活動力が非常に盛んであること。

バラエティ：種類・方法などの多さま。

問1 * にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の植物らと交配する生物の特徴
- イ 外来の植物が発育するための条件
- ウ 草花が勢力を拡大する繁殖の方法
- エ ある生物種が生息する範囲の環境

問2 ———線①「西洋タンポポと日本タンポポとは棲むニッチが異なる」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 西洋タンポポは風に乗ることで広い範囲に分布できるが、日本タンポポは水質豊かな川辺や堤防などでよく見られるということ。
- イ 西洋タンポポは都市化したところに多く分布するが、日本タンポポは自然が残り昆虫がいる地域でよく見られるということ。
- ウ 西洋タンポポは田園風景が残る限られたところに分布するが、日本タンポポは都市部周辺の人口密集地でよく見られるということ。
- エ 西洋タンポポは日本タンポポのいる地域にも生息するが、日本タンポポは西洋タンポポの生息しない地域でよく見られるということ。

問3 ———線②「それ」とありますが、その内容として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 西洋タンポポは遠くまで種子を飛ばして数を多くすることができ、仲間がいなくても一株だけで種子を作ることができるということ。
- イ 花粉を運ぶ昆虫の種類がどのようなものかを調べるためには、西洋タンポポと日本タンポポの特徴を比較する必要がありということ。
- ウ 一株だけで種子を作ることができる西洋タンポポは、他の植物たちがいるところでは花を咲かせることができないということ。
- エ 繁殖力の強い西洋タンポポが勢力を拡大していることによつて、日本タンポポは育ちにくくなり数が減少しているということ。

問4 A D にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア しかし
- イ 一方
- ウ まず
- エ そして

問5 I II にあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア I・強殖性
- イ I・弱殖性
- ウ I・自殖性
- エ I・他殖性
- II・弱殖性
- II・強殖性
- II・自殖性
- II・他殖性

問6 ー線③「有利さを發揮する」とありますが、どのような点が「有利」のですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の植物と共存することによってニッチをおかされる心配がなく、重たい種子を飛ばすことで生息範囲を広げられるという点。

イ 他の植物と栄養を分け合って生息するだけでなく、生存があやぶまれる場合は昆虫などから栄養を吸収して生きながらえるという点。

ウ 大きくて重い種子は他の植物と芽生えを競うだけでなく、他の花の花粉と交配し多様な子孫を残すことができるという点。

エ 豊かな自然が減りつつあるため他の草花は繁殖することがなく、大きな種子をもつ植物が育つのに適しているという点。

問7 ー線④「春しか咲かない日本タンポポは劣おとっている

ようにも思えるが、じつは戦略的だったのだ」とありますが、日本タンポポの「戦略」を説明した次の文章の X
・ Y にあてはまることばを、文中から指定された字数でそれぞれぬき出しなさい。

日本タンポポは、強い植物が生い茂る暑い季節に X (五字) にはなれないから、ダメージを受けないように Y (十三字) という戦略。

問8 ー線「在来の日本タンポポはだんだんと数を減らし

ている」のはなぜですか。その理由を文中から二十七文字でぬき出しなさい。

問9 本文の内容に合うものを次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア すべての生物が自分だけのニッチを持っていて、そのニッチは決して重ならないのである。

イ 多様な植物が生息する自然界を生き残るには、他の植物が持たないそれぞれの特徴を生かした戦略が必要である。

ウ 植物や昆虫の数を減らして生態系をくずすことは、豊かな自然環境を破壊はぶ壊することにつながるためである。

エ タンポポの種類で繁殖力の強弱が違うのは、育った場所の気候や環境に合わせるように進化してきた結果である。

オ ニッチが重なる生物種が存在すれば、生き残るために激しい競争が起こりニッチを奪い合うのである。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

引越しと転校の話は、椎野先生のAにも入った。ぼくがここにいられるのは、夏休みがはじまるまでということだった。あと少ししかないから、思い切り後悔しないようにたのしみよう、という考えには、どうしても至らなかった。逆に、あと少ししかないから、①もういいんだ、と思ってしまう。

②少し前のぼくに戻ったと思えばいいんだ。えだいちというあだ名や草野球や飼育委員なんて、全部うそだったんだ。ぼくはしよせん、だれからも気付かれない幽霊みたいな子どもで、それが本来の自分だったんだから、また元に戻るだけなんだと考えるようにした。

ぼくは三丁目の空き地に行かなくなった。これからはもう二度と行けなくなるんだから、早いうちに慣れておこうと思った。ぼくは、子どもらしい純粋さと単純さで、自分が少しでも傷つかないほうを選んでいった。

「えだいち、どうしたんだよ。元気ねえなあ」

押野は陽気に接してくれたけど、ぼくは頑なだった。押野との楽しい思い出を、もうこれ以上ひとつも増やしたくなかった。押野のお姉さんが、新しいデザートを作ってぼくを誘ってくれたけど、ぼくはBを横に振った。

この短かったたのしいときを、早く忘れてしまいたかった。※グッピーは子どもを産んだけど、あとのことは亀山さんと二人組に任せた。親とべつにするのが遅くなって、赤ちゃんのうちの何匹かは、親に食べられてしまった。飼育委員はもちろんだったけど、クラスメイトみんなが悔しがって悲しんだ。でもぼくは、親に食べられてしまった赤ちゃんグッピーのことをいい気味だと思っただし、理由はわからないけど、うらやましくも感じた。そして、ぼくは最低な人間なんだな、と自分のことを

どこか冷ややかに眺めていた。

押野以外の友達には、ぼくを避けるようになった。あたりまえだ。ぼくがCをきかないからだ。ぼくはやっと覚えたクラスメイトの顔と名前を記憶から全部消したかった。押野は、辛抱強くぼくに話しかけてくれた。毎日のように三丁目の空き地に誘ってくれた。ぼくは唇をかねて、Bを横に振り続けた。バットとひび割れたグローブは、押し入れの奥にしまった。「枝田くん。ちよつといいかしら」

ある日、椎野先生に呼ばれた。教室から職員室までの※リウムの廊下は、おそろしく無機質で、ひどく冷たかった。

「お母さんから聞いたわ」

椎野先生の言葉は、まったくぼくとは関係のないものだった。ぼくは椎野先生の「えがお顔」をじっと見た。仕方がないことを、大人は容赦なく聞いてくるのだ。

「枝田くんが五年生になって、とても男の子らしくなって、立派になったのを、先生は大変うれしく誇らしく思っています」

ぼくは椎野先生の顔を見つめるばかりだった。先生もぼくの顔をじっと見つめていた。

「転校するのがいやなのね」

ぼくは先生の顔をにらんだ。椎野先生の顔から「えがお顔」が消えた。

「自分の思っていることを、きちんと口に出して伝えなさい」先生は、ぼくの目をまっすぐに見ていた。ぼくは怒りたいのか、泣きたいのか、叫びたいのかわからなかったけど、言葉の口に出す前に勝手に④涙がこぼれ落ちた。ぼくはあわてて目をこすった。でも、涙は次から次へと流れてきて、ぜんぜん追いつけなかった。声を出そうとしても、ぼくののどからは、ひっくひっくという音しか出なかった。

「転校するのがいやなのね？」

ぼくはしゃくりあげながら、小さくうなずいた。それから先生は、あつという間にぼくを引き寄せて、ぎゅうつと抱きしめた。思いがけず力強くて、ぼくはびっくりして、そして安心して、それから、もつともつと⑤涙がこぼれた。

大人は、ぼくの関知しないところで勝手に行動をして、物事を都合のいいように決めてしまう。ぼくは、それをずるいと感じていたけど、それは同時に尊敬することでもあった。あの頃は、世の中がどういうふうに成り立っているのかまったくわからなかったし、大人というのは絶対的な存在だった。

そのあと、母さんと椎野先生との間で、⑥話は、またべつの方角へとあったのかぼくにはわからない。動きはじめていた。

「光輝が決めなさい」

と、母さんは言った。怒ってるふうでもなく、いいかげんな感じでもなく、それこそ、仕方がないのよ、という顔だった。

「どうしても転校したくないんだったら、ひとつだけ方法があるの」

母さんの声は、⑦ぼくの胸にぜんぜん響かなかった。もう、なにをどうしたって、ぼくの力が及ばないのはとうにわかってきたから。

(中略)

「光輝、聞いているの？」

母さんが少し大きな声を出した。

「おじいさんがいるのよ」

おじいさん？ いったいなんの話だろう。

「おじいさんは、実はこの近くに住んでるの。光輝のことも知

ってる」

「だれ？」

くしゃくしゃの顔をした、人食い鬼のような年寄りを想像した。曲がりくねった杖を振って、母さんを瞬く間に魔女にしてしまうのだ。

「だから、光輝のおじいさんよ。母さんのお父さん」

ぼくのおじいさん？ 母さんのお父さん？

「光輝も前に一度だけ会ったことがあるわ」

人食い鬼のイメージはすっと消えた。そして、ぼくの小さな頭の中に、記憶の断片が次々と浮かんできた。

夏。

古い大きな家。

麦わら帽子。

ホースから飛び出るしぶき。

土の匂い。

これらの断片は、ひとつひとつがとても力強くて、魔女にされた母さんは、一瞬にしてふっくらとした幸せそうな少女になった。

「もし、どうしても転校するのがいやだったら、おじいさんの家から学校に通えるわ」

「え？」

「おじいさんの家から通えば、今の学校を転校しなくてもいいのよ」

とたんに、⑧ぶわーっと土の匂いが広がった。乾いた土に水をまいたときの、大地の匂いだ。

そうして、ぼくは、おじいさんの家に住むようになったのだ。

(中略)

夏の夜風が肌をなでる。

「どれ、わしももうひとつ食べようか」

八分の一のスイカに塩をかけて、おじいさんは食べた。アラゼミが一匹、貝殻をこすり合わせたような声で鳴きはじめた。闇の中、雲が流れていくのが見えた。

「ここはどうだ、慣れたか」

ぼくはあんまりにもぼんやりとしすぎていて、おじいさんの言葉が、頬をなでる夜風みたいに自然で心地よくて一瞬間き流してしまった。それからはずと④われに戻って、

「あ？ ああ、はい！ 慣れました」と、あわてて答えた。

「そうか」

おじいさんはうなずいて、ぼくはぼくで、⑨新たな不安に⑩はたと思ひあたり、実際不安になっていた。そして、夜を味方に思いきつて聞いてみた。

「もしかして、ぼくがここにきて、おじいさんは迷惑だったですか」

今の今まで考えもしなかったことだ。ぼくはあたりまえに越してきたけど、おじいさんはぼくが生まれる前から一人で住んでいたのだし、一人のほうが気が楽なのかもしれない。だけど、今日だって水槽をプレゼントしてくれたし、なによりもカレンダーに誕生日のしるしがしてあったし、朝いちばんで「おめでとう」と言ってくれたし。だから、べつにそんなに迷惑じゃないと思うけど。でも、万が一。

「なにを言うか。そんなこと思つたらん」

おじいさんは少し怒ったように言った。さっきのセミが急に鳴きやんで、突然しずかになった。なんとなく③きまり悪いような気がして、ぼくはなにか言おうと思ったけど、なにも思いつかなくて黙っていた。

「お前さんが来てくれて家が活気づいてきた。柱も、※梁も、畳も、廊下も。庭や植木も。みんな喜んどうる」

おじいさんがゆっくりとしゃべった。⑩ぼくはほっとした。「それなら、よかったです」

それからおじいさんは「さみしいか」と、聞いてきた。ぼくは「さみしくないです」と答えた。おじいさんが横にいるから、もうさみしくなかった。

「水槽、ありがとうございます」

「あ、ああ。新品じゃなくてすまん」

「あの、えつと、おじいさんはなんで、ぼくの誕生日知ってたんですか？」

ぼくが質問すると、おじいさんは「そりゃ知ってるさ」と笑った。

おじいさんがマッチで煙草に火をつける。シュツという音とともに火薬みたいな、どこか懐かしい匂いがした。おじいさんが鼻から吹き出す煙草の煙が夜に流れていく。ぼくは、煙草の匂いを嗅ぎながら、新しい肉親がこうして隣にいてくれることを、とても頼もしく感じていた。

（ 椰月美智子 『しずかな日々』 一部改変 ）

※（文中のことばの意味）

グッピー … 熱帯魚の一種。

リノリウム … 床材などに使われる建築材料の一種。

梁 … 家の柱をつなぐためにかけわたす水平の材料。

問1 〜〜線①〜③のことばについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① われに返って

- ア 意識をもどして
- イ 返事をして
- ウ 昔を思い出して
- エ 後ろを向いて

② はたと

- ア 次第に
- イ 永遠に
- ウ 急に
- エ 確実に

③ きまり悪い

- ア つらい
- イ めんどくさい
- ウ つまらない
- エ 気まずい

問2 〜〜線①〜③にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 口 イ 首 ウ のど エ 目 オ 耳

問3 〜〜線①「もういいんだ、と思ってしまった」とありますが、何が「もういい」のですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 以前のぼくに戻りたくない強く願うこと。
- イ 転校するまでの間をたのしんで過ごすこと。
- ウ クラスメイトに転校の話を知らせること。
- エ 夏休みまでの間学校を休むということ。

問4 〜〜線②「少し前のぼくに戻った」とありますが、「少し前のぼく」の様子がわかる表現を文中より二十字でぬき出して、はじめの五字で答えなさい。

問5 ———線③「傷つかないほうを選んでいた」とありますが、「傷つかないほう」の行動を説明したものととして、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 三丁目の空き地に行かなくなった。
- イ 押野のお姉さんの誘いを断った。
- ウ 飼育委員の仕事を他のメンバーに任せた。
- エ クラスメイトとの思い出を全部消した。

問6 ———線④「涙がこぼれ落ちた」・———線⑤「涙がこぼれた」とありますが、「涙がこぼれ」た時の状態として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ④の時は自分の思いを伝えるかどうかの答えが出ずに苦しんでいて、⑤の時は先生も離れてしまうのではないかと不安になっている状態。
- イ ④の時はそれまで自分の思いを打ち明けまいとしていた緊張の糸がほぐれていて、⑤の時は先生を頼るしかなくて孤独を感じている状態。
- ウ ④の時は先生に涙を見せてはいけなさと我慢していて、⑤の時は先生にしか相談できないことを悲しんでいる状態。
- エ ④の時は自分の気持ちの整理ができず混乱していて、⑤の時では自分の思いを先生に受け止めてもらえて安心して

問7 ———線⑥「話は、またべつの方向へと動きはじめていた」とありますが、どのような「話」になりましたか。文中のことばを使って二十字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問8 ———線⑦「ぼくの胸にぜんぜん響かなかった」とありますが、なぜですか。その理由として最もふさわしいものを次の中から一つ、記号で答えなさい。

- ア 母さんと椎野先生が言い出した方法はぼくの知らないところで決まっています、子どものぼくには理解できなかったから。
- イ 母さんは自分の意見を聞き入れてくれないので、転校することは自分の力ではどうすることもできないことだとあきらめていたから。
- ウ 母さんと離れて暮らすということは考えられず、これからどうなるのかを想像すると不安で耳に何も入ってこなかったから。
- エ 母さんはおじいさんと勝手に次のことを話し合っていて決めていて、大人から何を言われても従いたくないと反発していたから。

問9

——線⑧「ぶわーっと土の匂いが広がった」とありますが、どのようなことを表していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア なつかしい記憶がよみがえるとともに、これからの生活に新たな可能性が見いだされて、希望に満ちたということ。
- イ 幼い頃のかすかな記憶だけで、おじいさんのことを決して良くないイメージの人として、思いこんだということ。
- ウ たくさんの記憶をうまく整理することができず、母親と離れて暮らす未来を想像すると、不安になったということ。
- エ 庭の土が水分をふくむように、かわいていた自分の心にもうるおいがあたえられ、生きる気力がわいたということ。

問10

——線⑨「新たな不安」とありますが、どのような「不安」ですか。文中のことばを使って三十字以内で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問11

——線⑩「ぼくはほつとした」とありますが、「ぼく」の気持ちとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おじいさんがぼくの誕生日を知っていてくれて照れくさい気持ち。
- イ 母さんと離れてもおじいさんといっしょに住むことができ、喜ぶ気持ち。
- ウ ほしかった誕生日プレゼントをおじいさんが覚えていてくれてうれしい気持ち。
- エ ぼくが心配するようなことをおじいさんは考えていないとわかって落ち着く気持ち。

問12

本文の内容に合うものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 母親と離れて暮らすことにさびしさを感じていたが、おじいさんの家からなら転校せずに学校に通えると聞いて、仕方なく引越すことを決めた。
- イ 転校の話を知らせなかったことで友達との関係が悪くなり、思い通りにならない現実には立って、涙ながらに先生に八つ当たりしてしまった。
- ウ おじいさんだけでなく家全体が喜んでくれていると言われて、自分の居場所を見つけたように感じ、二人での生活に安心感を持つことができた。
- エ ひとりでは何もできない自分自身を変えるためにも、転校や引越といった環境の変化が必要だったので、母親の話の前向きに聞いていた。

三 次の文の□に合う漢字として、最もふさわしいものをあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① □い夏がやってくる。
【ア 熱 イ 厚 ウ 暑】
- ② ようやく痛みが□まる。
【ア 修 イ 治 ウ 収】
- ③ クラスの話し合いで議長を□める。
【ア 勤 イ 務 ウ 努】
- ④ 買い物に出かけるため、家を□ける。
【ア 開 イ 空 ウ 明】
- ⑤ おそろおそろ体重を□る。
【ア 計 イ 測 ウ 量】

四 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 世界イサンへの登録を目指す。
- ② イコクの文化にふれる。
- ③ 住民の意見をハンエイする。
- ④ 雨天のため、遠足をエンキする。
- ⑤ ウミゾいの家に住む。
- ⑥ 長年、会社に勤める。
- ⑦ 年長者を敬う。
- ⑧ 激しい雨が降り続く。
- ⑨ 厳格な家庭に育つ。
- ⑩ 利己的な考え方。

これで問題は終わりです。